

貼り薬の使い方

貼り薬（経皮吸収型製剤）には大きく分けて2つのタイプがあります。

- ①貼った場所のみに作用がある薬：痛みや炎症を和らげる肩コリや腰痛等に使用する湿布やテープ
- ②全身（貼った場所以外の部位）に作用がある薬：気管支を広げる薬（喘息など）、心臓の血管を広げる薬（狭心症など）、禁煙を助ける薬など

貼り薬の長所と短所には以下の作用があります。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">・使用部（患部）への直接的な効果が期待できる・冷感、温感等の副次的な効果が期待できる・食事に関係無く使用できる・使用の中断が容易である・胃腸障害など全身性の副作用が少ない など	<ul style="list-style-type: none">・薬剤の吸収率が低い・かぶれなどの問題があるなど

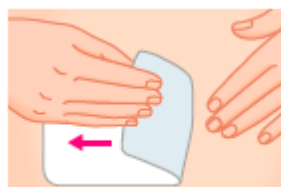
貼り薬を上手に使うために以下のことにご留意ください。

- ・粘膜や傷口、湿疹などのあるところには貼らないで下さい。
- ・汗や水をふきとってから使用してください。入浴後30分くらいたってから貼るのがお勧めです。
- ・かぶれることがあるため、貼る場所を少しずつずらすなどして気をつけてください。
- ・貼り薬をはがす際は皮膚の表皮まではがさないようそっと剥がしましょう。有毛部位では毛の生えている方向に沿ってゆっくりはがしてください。はがしにくいときは水やぬるま湯で濡らして、端から少しずつはがすのも一方法です。

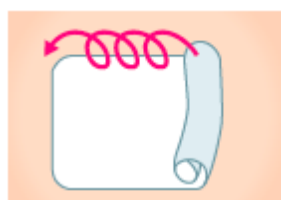
貼り薬のはがし方例



水でぬらす



皮膚を抑えながら
はがす



角から丸めながら
はがす

Q. なぜ皮膚に貼るだけで効果があるの？

A. 一定の量や速度で徐々に皮膚から薬が吸収されるよう製剤に工夫がされています。

薬の成分が皮膚から吸収されると、皮膚の下の毛細血管から速やかに吸収され薬は全身に運ばれます。そのため、貼った場所ではなく、全身へも効果が発揮されるのです。

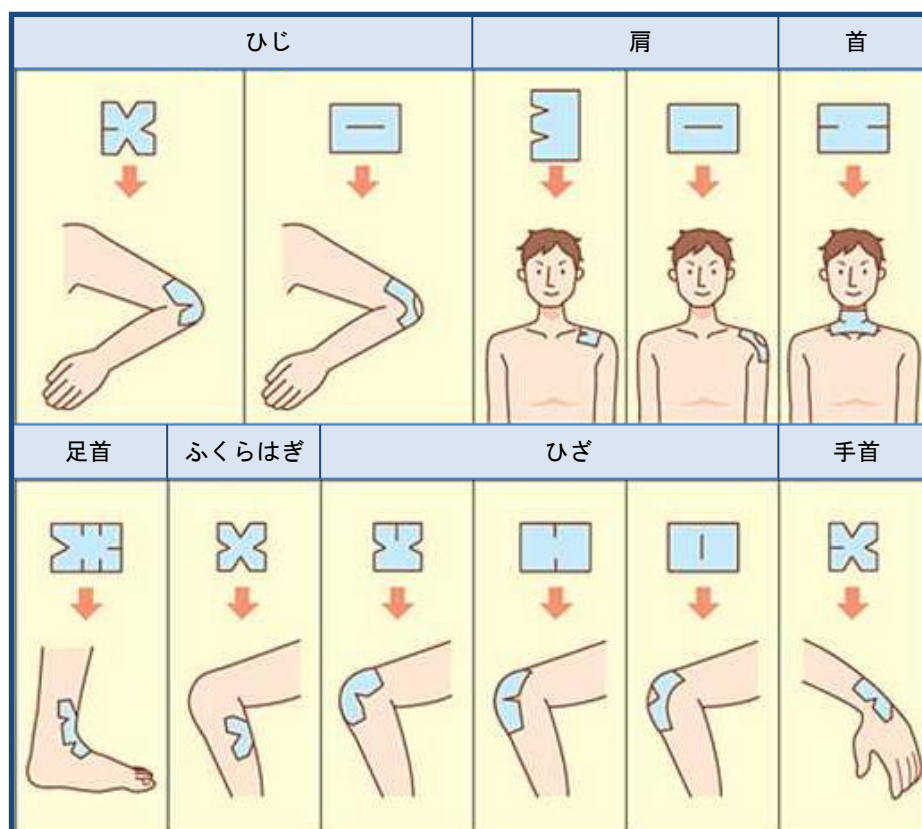
Q. 湿布剤とテープ剤の違いは？

A. 湿布剤は分厚く粘着力が弱いですが、水分を多く含み冷却効果が高いです。

テープ剤は薄く粘着力が強いです。油溶性の高分子素材を使用しています。

湿布剤やテープ剤は体を動かしているうちにはがれやすくなってしまふことがあります。紙テープなどで固定してもよいですが、貼る前に（セロファンをはがす前）にハサミで切れ目を入れると貼りやすく、はがれにくくなります。

背中や腰などの平らな部分は貼り薬の四隅を切り落とすとはがれにくくなります。ひじや肩、首、足首、ふくらはぎ、ひざ、手首などは下図のように切り込みを入れるのもよいでしょう



決められた貼り方（貼る場所や時間など）や貼る枚数を守りましょう。
説明書をよくお読みください。